

6. 乳前歯の歯冠修復法についての経過観察

○毛利元治（福岡市・もうり小児歯科）

中尾哲之（福岡市・中尾小児歯科）

我々の医院を訪れる小児は2才児が最も多く、しかも、乳前歯は2才児で約60%がう蝕に罹患している。一方、前歯部の審美的要求は、小児といえども高いことが示唆されている。このような目的を満すために演者らは、コンポジット充填や、クラウンフォーム、ポリカーボネイト冠による歯冠修復を行っている。今回、我々の医院を訪れた患児の診療録をもとに、これらの歯冠修復の経過観察を行ない、若干の知見を得たので報告する。

7. 乳歯の根管治療の予後について

○中尾哲之

（福岡市・中尾小児歯科）

感染根管を有する乳歯を保存するか、抜歯するかは常に日常臨床で悩む問題である。その問題について考える場合、その歯自体の予後も重要視しなければならないが、咬合誘導という観点からも選択する必要があると思われる。以上のことを考えていくにあたって、今回臨床調査を実施した。対象は、本院に来院した患児のうち、根管治療を行った者である。内容は部位、歯根吸収の程度、歯肉症状、リコール、歯槽骨吸収、成績他である。